

5. 路上駐車を考慮した路側帯の運用

街路空間の各交通主体への再配分を考える場合、そのポイントは両者の境界領域をいかにうまく利用するかということである。そこで、自動車に有利に配分されている四条通と寺町通を取り上げ、アンケート結果から、路上駐車を考慮した路側帯の運用について検討した。四条通と寺町通の片側の幅員構成及び路上駐車状況を表-1に示す、ここで歩道の設置を図-5のようにすることを提案し

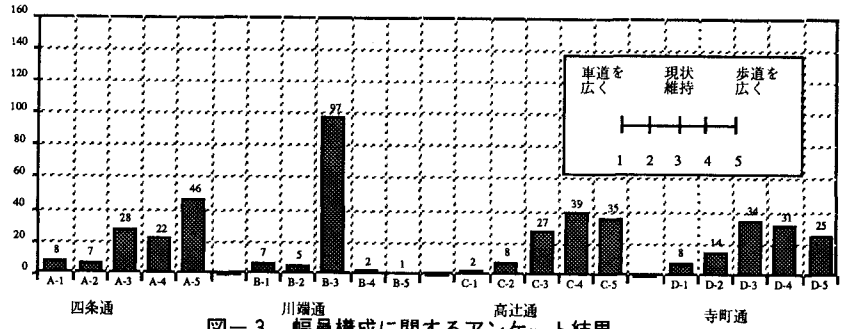


図-3 幅員構成に関するアンケート結果

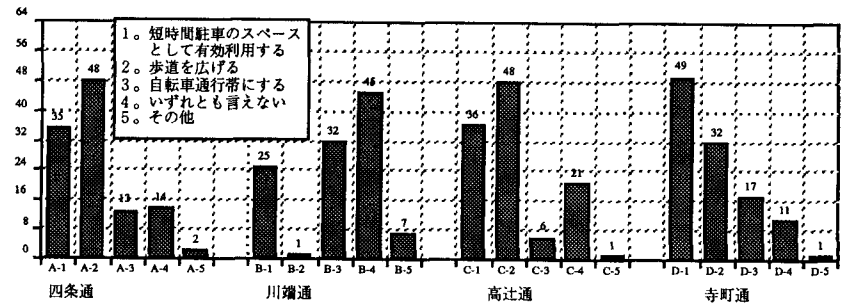


図-4 路側帯の利用に関するアンケート結果

たい。図-5では、路側帯はひとまず全て歩行者の空間として歩道に組み入れている。また、路上駐車実態を考慮して短時間の駐車を可能にするために停車スペースを設けている。この停車スペースのレベルは車道より一段高くする。この部分にはボード等を設置することによって安全を確保したうえで、もし駐車車輛が存在しなければ歩行者が歩道として使用できるもの（Dual Use）とすれば、より大きなスペースを歩行者の空間として活用できる。この提案には制度上の問題、あるいは停車スペース内の交通事故の責任問題など問題点もあるが、路側帯の活用の一方向として今後検討する価値はあろう。

表-1 幅員構成および路上駐車状況（片側）

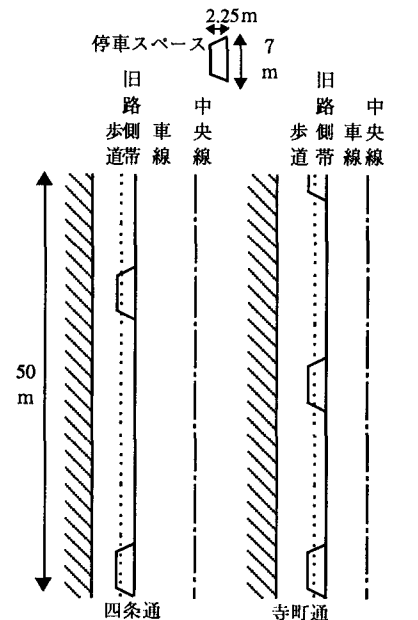
	車線数	歩道幅員	車道幅員	駐車台数/100m	路側帯
四条通	2	3.6	7.6	2.72	1.1
寺町通	1	3.7	4.05	5	1.05

6. おわりに

本稿では、ある街路区間のみを対象としているが、このような検討は交通運用と関連させて街路ネットワークについて行なうことが必要となると思われる。

参考文献

- 1) 塚口博司 他：道路利用者の特性を考慮した道路機能分類、第19回日本道路学会論文集、1990
- 2) 塚口博司 他：歩車のオキュパンスー指標の提案と住区内街路計画への適用、土木学会論文集、第383号/IV-7、1987



	歩行者	自動車	歩行者	自動車
現状	32%	68%	48%	52%
提案	42%	62%	61%	49%

図-5 路側帯運用例